

<b>Title</b>	祝卒業・新入生歓迎号
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合図書館
<b>Citation</b>	ぱびるす：聖学院大学図書館報 / 聖学院大学総合図書館, 第 60 号, 2015
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5369">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=5369</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

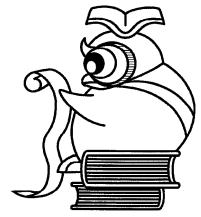
SEigakuin Repository and academic archiVE

# ぱびるす

聖学院大学総合図書館報

第60号 (2015年春)

祝卒業・  
新生歓迎号



## 図書目録カードが 消えた日

柴田 史子



近年では、パソコンが並んでいるのが図書館の入り口付近の見慣れた風景であるが、一昔前までは入り口付近には図書目録カードのカードケースがずらりと並んでいた。あの引き出しの行列を見かけなくなったのはいつの頃からだろうか？

私は1981年から2年間、ハーバード大学で短い留学生活を送った。大学構内には大小90余りの図書館があり、研究テーマのアメリカの宗教に関しては、どんなに古い文献でも手に入らないものはないという、恵まれた環境であった。アジアの文献を所蔵する<sup>イェンチン</sup>燕京図書館には、時折、日本の新聞や雑誌を読みに行ったりしていたが、留学2年目には、そのジャパン・セクションでアルバイトもさせてもらった。

仕事内容は、目録カードの書籍を館内からオフィスに運んでくること、カードの記載の誤りを訂正すること、書籍や古い目録カードを元の場所に戻すこと、などであった。日本語ですべての情報が記載されている新しい目録カードの所定の場所に、著者名と書名を英文タイプライターで打ち込む仕事は、ミスが許されない作業で、すぐに私には回ってこなくなった。オフィスにはまだ1台もワープロはなかった。「カードの写真を撮って冊子目録にするそうよ。それで、目録カードは廃止になるんですって。」というのが、ボスの説明だった。情報をコンピュータに入れるという話だったが、「コンピュータ=電子計算機」という認識しかなかった私たちアルバイト学生は、「計算機に図書の情報を入れてどうするの?」、「カードがなくなったらどうやって検索するの?」と、釈然としない思いをかかえて作業をしていた。

1993年2月、「里帰り」の機会を得て<sup>イェンチン</sup>燕京図書館を訪ねた。「貴女がいたころにしていた仕事、これになったのよ」とA3版ほどの大きさの分厚い本が並んだ棚を見せられた。図書館からは、目録カードの引き出しは撤去されていた。

アメリカの図書館がカード目録を採用し始めたのは1850年代であるが、約100年の時を経て機械可読目録の導入が始まった。コンピュータ端末による目録検索が普及していったのは1980年代後半だという。つまり、私はそれとは知らないまま、図書館のこの大きな動きの一端を担っていたということになる。クリック1つで本の検索ができるようになるまでに、どれほど多くのアナログな作業があったことか……何年間も顧みられることのなかった黴臭い本を探して暗い書庫を行き来した日のことを感慨深く思い出す。そして、同時に、この手軽さ・便利さの向こう側に、著者たちの魂の、アナログなものがきがあることが忘れられることのないようにと願うのである。

(総合図書館長 人文学部欧米文化学科教授)



## 国立国会図書館 図書館向け デジタル化資料送信サービス

国立国会図書館の承認を受け、国立国会図書館が所蔵するデジタル化資料138万冊を本学図書館で閲覧することが出来るようになりました。サービス対象者は、本学の学生・院生・教職員・卒業生・退職教職員です。必要に応じて著作権の範囲内で資料の複写も出来ますので、どうぞご利用ください。

- 受付・利用場所  
図書館1階 相談カウンター
- 利用時間  
月～土 8:45～16:45



## 図書館に関わる 思い出

111J051 膳 貴太



私は大学2年の初めくらいから3階カウンター  
のスタッフ（ライブラリーアシスタント）を始  
めました。図書館が好きだからとか、本に囲ま  
れている環境が好きだからとか、そういった理由  
でなくただ単に気まぐれで始めたのがきっかけ  
だったと思います。ここでは学生とのやり取り  
が多くあり、よく利用される学生の顔を自然と  
覚えることが多くありました。声を掛けたりな  
どはさすがにできませんが、「あ、今日もこの  
学生来てるな」や「レポートとか忙しいの  
かな」などと考えながら対応をしていました。  
しかし、今思えばきっとこれは一つの出会い  
のきっかけだったのだと思います。

その図書館でよく見かけていた学生と委員  
会や別の活動で一緒になる機会があり、相手  
から「図書館のスタッフさんですよ？」と声を  
掛けてもらったことがありました。私にとって  
非常に驚きでした。メンバーは日や時間によ  
って変わるのに自分の顔を覚えてくれたので  
すから。そのようなことがあってからその学  
生と話したり、一緒に遊んだりするような関  
係となりました。気まぐれで始めたものが私  
にとってかけがえのないものを与えてくれた  
のです。

この経験は私の図書館の価値観を覆しまし  
た。図書館は本などの貸し借りだけでなく、「  
人との出会いのきっかけの場」でもあると感  
じることができました。

これから入学する新入生の皆さん、大学  
では授業によっては多くの課題やレポートを  
課すものがあり、それらを書き上げるには  
参考文献等が必要となります。そのような時  
はぜひ図書館を利用してください。もし何  
かわからないことがあればライブラリーア  
シスタントや職員の方にお声がけください。

図書館が皆さんにとって大学生活の中の  
出会いの場の一つとなることを心から願っ  
ています。

（日本文化学科4年）

## 家でもない、 教室でもない

114A017 佐々木 麻耶



中学校に通っていた頃のある朝のことである。  
キーンコーンコーンとけたたましく鐘が鳴  
ると、掃除から帰ってきた人が引き出しから本  
を取り出し、続々と読みふけていった。彼ら  
は勤勉にも、授業が始まる前のわずかな時間  
を惜しんで本を読んでいるのであろうか。い  
いや。なんてことはない。私の中学校では読  
書活動の時間が設定されていたのである。1  
日のうち朝の15分間だけ教室に静寂が訪  
れたものだった。

興味や関心の方向がまったく違う人々が、  
同じ空間で同じ時を共有しながらも、てん  
でばらばらな内容の本を読んでいたのだら  
う。よくよく考えれば、当たり前のように  
何とも不思議な時間であった。

そんな私であるから、大学生になってこの  
大学の図書館を初めて訪れた時の驚きは禁  
じえない。まず、図書館を外からのぞいた  
ときに見えたものは、数えきれないほどの  
本…ではなくてパソコンであったのだ。は  
じめのうちはこんなにたくさんのパソコン  
、いったい何の必要があるのだろうかと思  
ったものだが、なるほど学期末などレポー  
トの提出期限が差し迫ってくると、むしろ  
足りなくなってしまいうくらい需要がある  
らしい。

大学の図書館には本当にたくさんの人々  
が様々な目的でやってくる。本を読む人  
やレポートの文献を探しに来る人だけで  
なく、新聞の一面をチェックしに来る人  
もいれば、レポートの作成に来る人もい  
る。さらには、DVD鑑賞や、ネットサー  
フィンを目的として訪れる人もいるので  
ある。たくさんの人と同じ場所にいるのに  
独りで、それも独りで部屋にいる時とは  
また少し様子の違う独りなのだ。私にと  
って図書館で過ごす時間は、友達と話す  
授業の前後や学食で過ごす時間と、部屋  
にこもって独りで過ごす時間のちょうど  
中間に位置する。独りでいるのにピリッ  
と気が引き締まる、そんな場所なのだ。

（欧米文化学科1年）



## 仲村優一先生の 寄贈資料について

助川 征雄

このたび、仲村優一先生（元日本社会事業大学学長）から寄贈された資料（図書）の整理が完了しましたのでご紹介します。今回のご寄贈は、先生の旧友である加藤恵司先生の仲介によるもので、多岐にわたる資料の中から、1年半の時間をかけ、主に人間福祉に関する書籍を重点に選書させていただきました。先生ご自身の書き込みのある書籍も少なくありません。それらは、古典的なものから最近のものまで、多岐にわたり、先生のご探求の足跡や業績の裏付けをうかがい知ることができます。

仲村先生は、昭和24年に東京大学経済学部をご卒業の後、日本社会事業学校研究科（後の社会事業大学の前進）をご卒業になりました。その生涯業績は多岐にわたりますが、先生は特に、「ソーシャルケースワーク」の紹介や福祉人材育成に力を注がれました。同時に、「公的扶助研究会」を軸に、「公的扶助ケースワーク」の制度的な確立をめざすなど、第二次世界大戦後の日本の社会福祉政策と福祉人材教育に大きな足跡を残されました。私事ながら、昭和40年代に、明治学院大学でうかがった先生の「ケースワーク」の授業が懐かしく思い出されます。先生のご健勝をお祈りしつつ、皆様のご活用をお願いします。

（人間福祉学部人間福祉学科教授）

## 図書館サポーターメンバー募集

図書館サポーターは、2015年4月より活動を開始する学生ボランティアです。図書館をより便利に、より楽しくするイベント・展示・広報等の企画を学生自身が考えて活動をします。只今、一緒に活動してくれるメンバーを募集中です。

参加希望者は、図書館1階カウンターまで。



## 2014図書館の動き

### ●ビブリオバトル開催

6月、第2回目となる図書館主催のビブリオバトルを開催。また、11月には全国大学ビブリオバトルの予選会を開催し、予選会チャンプとなった本学学生が関東地区決戦へ出場した。

### ●早朝開館サービス（トライアル）実施

早朝開館トライアルと銘打ち、6月末からと9月下旬からの各3週間、通常8時45分開館のところ8時15分と30分早めて開館を行った。

### ●国立国会図書館 デジタル化資料送信サービス

1月、約1年の準備期間を経て、国立国会図書館のデジタル化資料約138万冊が図書館1階相談カウンターで利用できるようになった。

### ●図書館サポーター準備開始

図書館学生サポーター（仮）の枠組みが承認され、2015年度からの正式活動開始をめざし、準備メンバー6名による活動が開始された。

### ●カラープリンター導入

かねてより要望の高かったカラープリンターが導入され、フルカラー、2色刷りなどの印刷が出来るようになった。

### ●WindowsXP から7へ

利用者用パソコンのOSをWindowsXPから7へと移行。あわせてOfficeも2010となった。

### ●ECA Reading 教材が図書館へ

ECA Readingのための教材一式が図書館3階に移管され、3階カウンターでの貸出が始まった。

### ●学生による展示

図書館情報学課程学生の卒業研究として、学生企画の展示が行われた。テーマは「本屋大賞」。

### ●第4回学生選書

ジュンク堂書店にて有志による学生選書を実施。その後読書会、展示も行われた。

### ●リフレッシュ点検

図書委員会を中心に、館内の蔵書資料を見直す書架リフレッシュ点検が実施された。

## 寄贈資料

鶴沼裕子先生、仲村優一先生、聖学院大学後援会より資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

# 2014年図書館の統計

(2015年1月31日現在)

## I 図書館の推移

	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	資料費
	人	冊	冊	日	千冊	千円
2014	2,161	300,897	3,053	282	13.3	27,787
2013	2,419	299,396	3,343	279	14.2	27,216
2012	2,513	296,694	4,261	283	15.8	27,654
2011	2,677	293,148	4,930	275	16	30,849
2010	2,768	288,629	5,116	288	16	30,465
2009	2,724	283,610	5,042	281	16.9	30,497
2008	2,827	277,506	6,570	280	17.6	30,583
2007	2,875	273,877	8,148	276	17.9	32,267
2006	2,969	264,673	7,869	236	19.5	32,345
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

## II 蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	11,350	1,459	12,809
哲学・宗教	21,914	16,131	38,045
歴史・地理	19,313	3,328	22,641
社会科学(含教育学・福祉)	82,708	18,611	101,319
自然科学(含医学)	13,254	1,297	14,551
工学(含家事)	7,308	482	7,790
産業	5,549	470	6,019
芸術(含楽譜)	10,563	933	11,496
語学	11,185	2,939	14,124
文学	42,691	14,257	56,948
その他	9,856	5,299	15,155
合計	235,691	65,206	300,897

## III その他の蔵書資料数

	冊数	種類	冊数
和雑誌(紀要・寄贈含)	417	カセットテープ	752
洋雑誌(寄贈含)	112	ビデオ・LD・DVD	3,116
スライド	34	CD	1,296
マイクロ資料	18,814	CD-ROM	789

## IV 館外貸出冊数(図書・製本雑誌)：分類別

(2014年4月1日～2015年1月31日)

学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	573	0	573
哲学・宗教	1,597	26	1,623
歴史・地理	836	3	839
社会科学(含教育学・福祉)	4,539	9	4,548
自然科学(含医学)	490	2	492
工学(含家事)	234	0	234
産業	161	0	161
芸術(含楽譜)	600	3	603
語学	978	7	985
文学	1,906	4	1,910
その他	1,267	21	1,288
合計	13,181	75	13,256

## V 館外貸出冊数：学科・学年別

(2014年4月1日～2015年1月31日)

所属・学年	図書(製本含む)	未製本雑誌	CD
政治政策	2年	0	0
	1年	175	4
アメ・ヨ文化	後3年	4	0
	後2年	12	0
	2年	91	11
	後1年	143	3
	1年	56	0
人間福祉	2年	0	0
	1年	282	31
科目等		79	0
大学院生小計		842	49
政治経済	4年	242	1
	3年	379	7
	2年	311	0
	1年	663	5
コミュニティ政策	4年	172	0
	3年	308	40
	2年	152	13
欧米文化	4年	341	1
	3年	608	1
	2年	427	13
	1年	565	1
日本文化	4年	443	6
	3年	738	0
	2年	871	6
	1年	907	8
児童	4年	472	3
	3年	750	6
	2年	815	1
	1年	763	1
こども心理	3年	302	2
	2年	388	0
	1年	553	1
人間福祉	4年	162	4
	3年	333	0
	2年	312	6
	1年	301	0
科目等		136	0
学部生小計		12,414	126
院生・学生合計		13,256	175

## VI その他(他館との協力等)

(2014年4月1日～2015年1月31日)

資料借用	冊数	複製依頼	冊数
(内、学生・院生)	40	(内、学生・院生)	316
資料貸出	55	複製受付	200
紹介状発行	4	視聴覚コーナー利用	1,370
(内、院生)	0	館内ノートPC貸出	4,068
紹介状受付	1	館内iPad貸出	1,411
文献検索	26	マイクロ利用	1

発行・編集 聖学院大学総合図書館  
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096  
E-mail: lib@seigakuin-univ.ac.jp  
URL: http://seiglib.seigakuin-univ.ac.jp/